

江戸川大学 学報

edodai.jp

2024年2月

Vol.22 No.53

●主要行事

●学内イベント

●人事

●諸報

国際交流活動

教育活動 研究活動

社会・地域との連携・交流活動

●栄典・表彰

●強化指定部活動報告

●施設・防災・決算報告

●連載

「創立25周年江戸川学園物語」



主要行事

2023 駒木祭



円陣を組む実行委員達



屋台が復活

11月2日(木)・3日(金)に江戸川学園おたかの森専門学校と合同の駒木祭が開催されました。今年は4年ぶりに完全対面での実施となり、飲食の屋台やキッチンカーも出店しました。2日間とも晴天に恵まれ、来場者数は4000人以上となり盛況のうちに終了しました。

学科・ゼミの教育研究活動の展示やクラブ・サークルの企画発表の一部を紹介



アイドル愛好会「愛センチメートル」



コビーダンス愛好会「BLACK ANGEL」



軽音楽部「JOYCE」



ダンス愛好会「DECK'S」



弦楽部



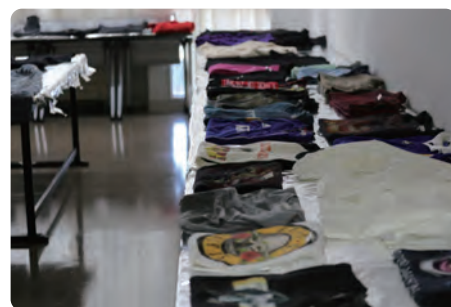
バドミントン部の味噌田楽



鉄道愛好会展示



駒木学習センター 書と水彩スケッチ展



ファッションサークル展示



写真愛好会展示



EDO Show



後夜祭 (DJ Ruru)

学内イベント

学園祭を終えて



学園祭実行委員会委員長
牧野奈々葉さん

今年度のテーマ「彩晴～Refresh～」は、昨年度のテーマである「彩虹」を受け継ぎつつ超えていきたい、4年振りの対面開催に向けて心機一転リフレッシュした状態で楽しんでもらいたいという想いを込めて決めました。

1年生の時から実行委員会に所属していますが、3年間全て開催形式が違うという貴重な体験をすることができました。対面開催に向け、どんどん形になっていく学園祭にワクワクすると同時に、不安なことたくさんありましたが、支えてくれる実行委員会の仲間がいたからこそ、2日間無事に終えることができ、人と協力することで得られる経験は一生モノだなと感じました。

学園祭実施にあたりご協力いただきました皆様、ご来場者の皆様、本当にありがとうございました！



9月卒業式

9月27日（水）に映像ホールにて9月卒業式が挙行され、社会学部人間心理学科4名、現代社会学科1名、経営社会学科8名、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学部2名、情報文化学科6名、こどもコミュニケーション学科3名の計24名に学位記が授与されました。



こどもコミュニケーション研究所主催 こどもコミュニケーション フォーラム

11月3日（金・祝）に第12回こどもコミュニケーションフォーラムを行い、映画「こどもかいぎ」を上映しました。（詳細は12ページに掲載）



国立公園研究所主催 国立公園映像コンサート

11月2日（木）に国立公園研究所主催による国立公園映像コンサートを行いました。

「地上の楽園・尾瀬」「日光国立公園 戦場・小田代ヶ原を歩く」「動物と生きもの」「アートな自然を訪ねる旅」等、国立公園研究所の研究者が集めた映像とともに、バイオリン+ピオラ+ピアノの生演奏を聴くぜいたくなライブコンサートでした。





設営・配信も学生が主体となり実施



イベントを運営した音楽・ファッションビジネスコースの学生達

「ファッションコーディネート対決」は人気ブランドとのタイアップ企画。コーディネートテーマを決め、学生が各ブランドの商品を使って対決します。

「NEXTAGE ARTIST AUDITION」は全国の高校生を対象とした軽音楽コンテスト。音楽業界のプロフェッショナルが「次世代を担い、世界に通用する可能性を持った高校生アーティスト」を選ぶべく審査を行い、グランプリ受賞者には「NEXTAGE ARTIST」の称号が授与され、希望する場合には音楽ビジネスの専門ゼミの3年次生による「デビュープログラム」のサポートを受けることができます。

11月3日(金・祝)に第二体育館を会場に対面とオンラインのハイブリッドで江戸川ガールズアワード(EGA)を開催しました。EGAは、経営社会学科の演習・実習の取り組みとして、音楽・ファッションビジネスコースの学生たちが作り上げる大型イベントで「NEXTAGE ARTIST AUDITION」と「ファッションコーディネート対決」の2つで構成されます。

NEXTAGE ARTIST 2023 オーディション決勝ライブ

第5回となる今年度の決勝出場者はバンド部門3組・ソロ部門1組が選ばれ、グランプリをVanity、審査員特別賞をLemon Academyが受賞しました。

ゲスト審査員は音楽プロデューサーの割田康彦氏、ヤマハミュージックジャパンの森山賢志氏、柏 ALIVE 代表の RANMA 氏の3名で、講評では「どのバンドも非常にレベルが高く審査員泣かせとなり、慎重に議論を重ねた結果、優秀賞のほかに急きょ審査員特別賞を設けました」と話されました。



Vanity



Lemon Academy



star cherry



Luna

ファッションコーディネート対決

今年度は「Back to the 2K」と題し、ファッションコーディネート対決を行いました。丸山礼さんを特別審査員に迎え、ファッションビジネスコースの2年ゼミ生3チームがそれぞれ「BEAMS」「Ray BEAMS」「XLARGE」「X-girl」「Bshop」の商品と独自に仕入れた古着を使ったコーディネートで対決しました。優勝は「XLARGE」「X-girl」の商品で、ポジティブでパワーのあふれるY2KをテーマとしたBチームが選ばれました。



プロのモデルが学生の考えたコーディネートを着こなしました

エレクトロキャパシティミニライブ

昨年度の江戸川ガールズアワードでグランプリを受賞したエレクトロキャパシティがミニライブを行いました。ロックと電子音楽を融合させ、新しく色鮮やかな音楽を奏でる“ネオエレクトロロックバンド”でメンバーはKey. 相澤俊介さん、Vo./Gt. 菅生桃さん、Key. 石原遥さん、Dr. 大森惇空さんの4人。経営社会学科の音楽ビジネスゼミ3年生がアーティストプロデュースを行い、音楽プロデューサーに割田康彦氏を迎えたデビュー曲「ミッドナイト・フォール」を含む全3曲を披露しました。(関連記事が15ページに掲載)



軽快なロックサウンドで会場を盛り上げました

新任教員の紹介



佐藤 俊彦
サトウ トシヒコ

社会学部人間心理学科・教授

出身地：千葉県
最終出身校：東北大学大学院文学研究科博士課程後期3年の課程修了、博士（文学）
前職：長野大学社会福祉学部、教授
主要担当科目：心理学概論A、精神生理学、睡眠の生理心理学

青森県の短大や、宮城県、および長野県の大学で心理学を教えてまいりました。今までは、割と冷涼な気候の土地で過ごしてきました。

私の専門は心理学、特に、実験心理学と生理心理学です。ヒトの脳波や心拍、皮膚電気活動などを測定してきた一方で、ラットやマウスを使った動物実験も行った経験があります。前職では、長野県の公立大学に所属していましたが、脳波計などを使う機会はありませんでした。本学では、ヒトを対象とした脳波測定などの実験ができると期待しております。

なお、昨年4月に入院してしまいました。福田先生はじめ、多くの先生方や職員の皆さまにご迷惑をおかけしました。申し訳ございません。今後は体調管理に気を付けながら、本学での業務に早く慣れることができるよう努力したいと存じます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

※2023年4月1日着任

新任職員の紹介



阿部 秀平
アベ シュウヘイ

事務局学務部学生課

出身地：新潟県
最終出身校：大東文化大学外国語学部英語学科
前職：医療法人徳洲会千葉西総合病院人事課

高校まで新潟で過ごし、大学卒業後は関東地方に展開する食品スーパーマーケットと総合病院に勤務いたしました。スーパーでは店舗のベーカリー部にてパンの製造や原材料の在庫管理を、病院では社会保険の手続きや給与計算、社宅管理等の業務を担当いたしました。民間企業で約10年経験を積んでまいりましたが、特にコロナ禍においての病院での勤務は、陽性患者の救急搬送に携わるなど緊張感のあるものでした。

2023年10月より学生課にて勤めさせていただくことになり、改めて江戸川大学の一員になれたことを大変嬉しく思います。大学職員として心機一転、精一杯努力してまいりますので、皆さまご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

※2023年10月1日着任

学長の交代

小口彦太学長の2024年3月31日任期満了に伴い、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科の宮崎孝治教授が次期江戸川大学学長として選出されましたのでお知らせします。任期は2024年4月1日から2028年3月31日までの4年間となります。宮崎教授の略歴は以下の通りです。

【略歴紹介】

◆学歴

昭和62(1987)年3月 東京学芸大学教育学部特殊教育学科卒業
平成元(1989)年3月 東京学芸大学大学院教育学研究科障害児教育学専攻修士課程修了
平成3(1991)年3月 筑波大学大学院教育学研究科教育基礎学専攻博士課程退学

◆専門分野

教育学、特別支援教育

◆主な職歴

平成7(1995)年 江戸川女子短期大学 講師
平成12(2000)年 江戸川女子短期大学 助教授
平成18(2006)年 江戸川大学社会学部 助教授
平成21(2009)年 江戸川大学社会学部 教授
平成26(2014)年 江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授

◆主な役職歴

平成22(2010)年4月～平成26(2014)年3月 教職課程センター長
平成25(2013)年4月～平成28(2016)年3月 基礎・教養教育センター長
平成28(2016)年4月～平成31(2019)年3月 メディアコミュニケーション学部長
平成31(2019)年4月～令和4(2022)年3月 入学センター長
平成26(2014)年4月～現在に至る 教務部長
平成31(2019)年4月～現在に至る 副学長

事務職員メンター制度及び職員研修会の実施

2022年度より、新規採用された常勤事務職員を対象に仕事上の課題や悩みなどについて年長職員が指導・助言（メンタリング）を行うメンター制度を実施しています。

担当する年長職員は事前にメンター養成研修を受講してからメンタリングを行い、新規採用職員のサポートを行います。メンタリングは採用日から原則半年間行われ、事務職員の早期の戦力化及び自立化を図ります。

また、2023年度より中途及び新規採用の常勤事務職員を対象に職員研修会を実施し、人材育成を図っています。



国際交流活動

異文化理解研修

8月26日(土)～9月9日(土)の約2週間、ニュージーランドのマッセイ大学アルバニー校で異文化理解研修を行いました。国際交流センター長の新井正彦教授の引率で、学生13名が参加しました。現地ではホームステイをしながら英語を学び、ニュージーランドの文化に触れました。



デボンポートにて

語学研修(オセアニア)

9月1日(金)～9月23日(土)の約3週間、オーストラリアのグリフィス大学ゴールドコースト校で語学研修を行いました。国際交流センターの戸丸優作助教の引率で、学生16名が参加しました。慣れない土地に困惑しながらも、現地の人と英語でコミュニケーションを取り、自身の語学力を磨く研修となりました。

語学研修(欧米)

8月27日(日)～9月17日(日)の約3週間、アメリカのハワイ大学マノア校で語学研修を行いました。国際室の山田博之主任の引率で学生9名が参加しました。現地の人との出会いを通して、考え方が前向きになり自身の価値観が変わった学生もいました。



サーファーズパラダイスにて



ワイキキビーチにて

海外体験研修(東アジア)

9月11日(月)～9月15日(金)の5日間、韓国で海外体験研修を行いました。現代社会学科の崎本武志教授の引率で学生21名が参加しました。釜山外国語大学の学生との交流など研修の中で、韓国の交通ルールや挨拶など、日本との文化の違いに気づき、日本の普通が当たり前ではないことを学ぶ機会となりました。



慶州にて

海外専門研修(現代社会学科)

8月7日(月)～8月10日(木)の4日間、台湾の台北市を訪れました。参加学生は7人で現代社会学科の土屋薫教授、川瀬由高講師が引率しました。

日本と台湾の文化の違いを、食文化や文化景観の違いから比較す

ることで、自らの当たり前を相対化する視点を鍛えました。

留学生バスツアーを実施

11月24日(金)に国際交流センターが留学生バスツアーを開催しました。留学生18名、日本人学生3名、教職員8名の計29名が参加しました。このイベントは、留学生に日本の風景や文化に触れてもらうことを目的としており、今年度は千葉県香取市の農園リゾート「THE FARM」と成田山新勝寺を訪れました。

「THE FARM」では飯盒炊飯・カレー作りに挑戦。成田山新勝寺では、参道と成田山公園の鮮やかな紅葉を楽しみながら、交流を深めました。



成田山新勝寺にて

崎本武志教授が北村森氏、杉山維彦氏、竹村英樹氏、田中夕貴氏を講師に招き「紋別タッチ」を題材に特別講義を実施

10月24日（火）に行われた現代社会学科の崎本武志教授の「クリエイティブツーリズム論」は、特別講師として元日経トレンディ編集長でサイバー大学教授の北村森氏、大阪国際大学短期大学部教授の杉山維彦氏、社会学者の竹村英樹氏（慶應義塾大学他講師）、紋別セントラルホテル常務取締役の田中夕貴氏をお招きして実施しました。

他に類を見ない旅行形態で話題をさらった「紋別タッチ」を題材に、なぜブームが巻き起こったのか、今後どうして行くべきかについて、講師と学生がともに検討しました。ホスピタリティについて、感動の本質について、さらには社会学を学ぶ意義へと、思考を巡らせました。

マス・コミュニケーション学科 演習・実習「CM制作」作品紹介

マス・コミュニケーション学科の3年生が、学生として気を付けることや、江戸川大学で学生生活を送る際に役立つことなどについて、『マルチ商法にご用心!!』『なまはげ』『施設紹介』の3つのイメージCM作品を制作しました。制作したのは授業「マス・コミュニ

ケーション演習・実習」で小久保利己教授（エンターテインメントコース）と中島健夫教授（ジャーナリズムコース）の指導を受けた学生です。

3チームに分かれた学生は、チームごとに企画立案から構成台本作成、撮影準備、撮影、編集、仕上げまでの各工程を協力して行い、作品を完成させました。



マルチ商法にご用心!!



なまはげ



施設紹介

現代社会学科が流山市の クリーンボランティア

「まちをきれいに志隊」に参加

現代社会学科の佐藤秀樹講師が実施した授業（現代社会実習Ⅱ）の中で、現代社会学科の学生が、千葉県流山市のクリーンボランティア「まちをきれいに志隊」として、江戸川大学周辺の清掃活動を行いました。清掃道具や「まちをきれいに志隊」のタスキ等は流山市役所からお借りしました。

学生はごみ拾いを通じて地域社会の廃棄物管理の現状や課題を把握。ボランティア活動による社会貢献の進め方について探究する貴重な機会となりました。



「まちをきれいに志隊」に参加した学生たち

経営社会学科の学生が 「東京スター銀行本店」を訪問

経営社会学科の杉山敏啓ゼミナールでは演習・実習の教育活動として、12月15日（金）に東京都港区赤坂にある東京スター銀行の本部および本店ファイナンシャル・ラウンジを訪問しました。

本部では、東京スター銀行の会社概要についてご説明をいただいた後、人生100年時代の人生の見通しを可視化するファイナンシャル・プランニングの技法について講義を受けました。本店ファイナンシャル・ラウンジでは、顧客との相談機能を重視した先進的な店舗レイアウトを実際にご案内いただきながら解説を受けました。



東京スター銀行にて

教育活動

経営社会学科の学生が
「ファイナンシャル・プランニング
技能士」3級に合格

経営社会学科の会計・金融ビジネスコースでは、ファイナンس学習の一環として国家資格であるファイナンシャル・プランニング技能士資格試験へのチャレンジを推奨し、ゼミ活動等を通じた学習支援に努めています。

合格者・資格取得者は以下の通りです。

■合格者
齋藤俊介さん（4年）／三村裕夢さん（3年）／大野正勝さん（3年）／高橋一希さん（3年）／徳野温仁さん（3年）／中山愉那さん（3年）／長谷川舜さん（3年）／山崎あみんさん（3年）／横井蓮さん（3年）



崎本武志教授が「観光概論」に
JR東日本・柏駅長を講師に招き
特別講義を実施

11月16日（木）に行われた現代社会学科の崎本武志教授の「観光概論」は、特別講師として東日本旅客鉄道株式会社・柏営業統括センター所長（柏駅長）の石井孝男様、副長の大島正之様、主務の飯川祐子様、指導係の増淵統行様をお招きして実施しました。

受講学生は鉄道産業の全体像について、また、観光との関わりについて学びました。普段から自身がよく利用している駅で駅務に従事する先生方からのお話で、鉄道業界のホスピタリティ産業としての面や、安全に最大のプライオリティを置いていることなどを深く理解することができました。



鉄道業界についてお話を伺いました

大学生意識調査プロジェクト
「FUTURE 2023」に参画

マス・コミュニケーション学科 井上一郎教授の専門ゼミナールに所属する3年生の伊東芽生さん、齋藤彩花さん、柴田悠乃加さん、鈴木璃桜さん、古幡爽花さん、前北彩妃さんが大学生の意識調査プロジェクト「FUTURE 2023」に参画しました。

公益社団法人東京広告協会が主催する本プロジェクトは、マーケティング・広告などのゼミに所属する大学生が調査設計から分析、そして報告書の作成まで一連の作業に取り組みものです。本学学生は青山学院大学、駒澤大学、専修大学、千葉商科大学の学生と協力し、博報堂の社員などからアドバイスをもらいながら約半年間をかけて調査に取り組みました。

2023年のテーマは『コロナ禍がもたらした変化』で、12月18日（月）東京広告協会でプレス発表が行われ、多くの記者や関係者に対して江戸川大学の学生も発表を行いました。調査結果の詳細は東京広告協会のWebページで公開されています。

「西条昇教授と歩く日本のロック
とアイドルが生まれた街
in 日比谷」を開催

マス・コミュニケーション学科の西条昇ゼミが2月10日（土）「西条昇教授と歩く日本のロックとアイドルが生まれた街 in 日比谷」と題して特別講義とウォークツアーで構成するイベントを開催しました。

本イベントは西条ゼミの学生たちが、企画、運営、Webサイト・フライヤー作成、イベント広報、映像記録などをそれぞれ手分けして担当しました。

イベント当日は日比谷図書文化館のセミナー室にて西条教授の特別講義を行った後、「日本劇場」跡、渡辺プロダクション創業の地である「日比谷・三信ビル」跡、日劇ウエスタンカーニバルの前身イベント「ウエスタンカーニバル」が開催されていた「東京ヴィデオ・ホール」跡、名門ジャズ喫茶「銀座テネシー」跡、渡辺プロダクション経営のライブスポット「ヤングメイツ」跡、芸能プロダクション「東洋企画」跡など、日本のロックと男性アイドルが生まれたゆかりの地を約1時間半かけて実際に歩いて訪ねました。

教育研究活動



ファシリテーター活動に参加する学生達

情報文化学科の学生が東京都ファシリテーター養成講座に参加

情報文化学科では、2017年度から東京都の依頼を受けて、グループワークを促進するためのファシリテーター（ボランティア）として、中高生にネット利用に関する助言を行うなど活発な活動を行っています。

6月1日（木）、新たにこの活動に加わる学生の研修のため、東京都より担当者を江戸川大学に迎え、ファシリテーター養成講座を実施しました。ネットに関する青少年の課題、講座の進め方、活発な議論を促進する方法などについて熱心に講義を聴き、グループワークを行いました。参加学生はこれからのファシリテーター活動への意欲を高めました。

情報文化学科の学生が国家試験「応用情報技術者試験」に合格

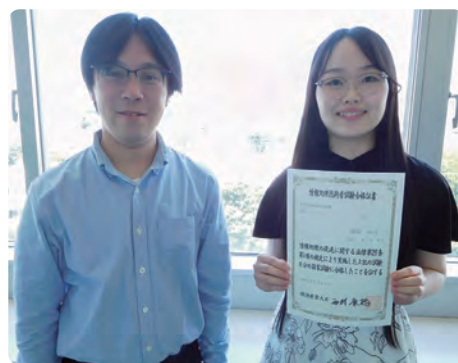
情報文化学科4年生の根岸かほさんが、国家試験「応用情報技術者試験」に合格しました。根岸さんは1年次にITパスポート試験、2年次に情報セキュリティマネジメント試験、3年次に基本情報技術者試験にそれぞれ合格。着実にステップアップし、今回の難関試験合格につながりました。根岸さんは「試験対策の授業や、先生に苦手分野の解説をしていただいたことが役立ち、合格できたと思います。小原裕二先生をはじめ、情報文化学科の先生方や友人から「頑張れ」と励ましの言葉をかけてもらったこともモチベーション維持につながりました。内定先の企業はIT系です。基本情報技術者試験と応用情報技術者試験は、いずれ昇格に必要なので、入社前に取得できてよかったです。入社後は、業務や上位の試験勉強を通してより専門的な知識を身につけて、高い技術力のあるSEになり、専門的な知識が必要な仕事に携わっていききたいです」とコメントしました。

キャリアセンターでは「就職ガイダンス」など様々な就職活動支援を行っています。

11月29日（水）に行われた第8回就職ガイダンスでは「卒業生を囲む就職相談会」を実施。社会で活躍する江戸川大学OB・OGが来校し、就職活動を控える学生に各業界・企業の業務内容や採用情報の説明、選考に向けたアドバイスを後輩在生に直接行っていただけのイベントで、今回は情報通信業、卸・小売業、サービス業、公務等で活躍する10名のOB・OGにご協力いただきました。

学生たちは興味のある企業のブースを訪ね、先輩方の説明を聞きながら自分の進路について考

キャリアセンターが卒業生を囲む就職相談会と就活メイクアップ講座を実施



小原裕二講師と根岸かほさん

え、熱心に質問をしていました。

12月18日（月）に行われた「就活メイクアップ講座」では、資生堂ジャパン株式会社から講師をお招きし、これから就職活動を行う女子学生を対象に、就活用のメイク方法や日常のスキンケア等を講師の解説・実習を通して体験しました。プロにメイクのアドバイスをしてもらえるという事もあり、学生たちは熱心に質問、実践をしていました。



プロからメイク指導を受けました



先輩方の話を熱心に聞いていました

教育活動

こどもコミュニケーション学科の1年生と2年生が合同でコンサートを開催

10月28日(土)に映像ホールにて、こどもコミュニケーション学科で「器楽表現の技術A」「器楽表現の技術B」を履修している1年生と2年生が合同でコンサートを行いました。

こどもコミュニケーション学科の猶原和子特任教授を中心に、器楽表現の技術を担当する吉岡三貴先生、齊藤紀子先生、声楽表現の技術を担当する中津川祥子先生、そして江戸川大学の音楽室に常駐しているピアノのインストラクターの先生方がコンサートに向けて学生たちの演奏指導を行いました。

コンサート当日はこどもコミュニケーション学科の教員や上級生、こどもコミュニケーション実習センターのスタッフなどが来場し、全38組の演奏を楽しみました。



日頃の練習の成果を発表しました

こどもコミュニケーション学科の3年生が「えどがわ南流山保育園」で演奏会を開催

11月20日(月)にこどもコミュニケーション学科の科目「総合表現演習II」(担当:猶原和子特任教授)を履修している3年生が、えどがわ南流山保育園にて、園児たちに向けた演奏会を行いました。

学生たちは、このコンサートに向けて、幼児に人気のある楽曲を選びながら演奏練習に励み、こどもコミュニケーション学科のマスケットキヤラクター「エドペン」が司会を担当する設定の進行台本を考えました。園児たちはただ聴くだけではなく、合唱やダンスに参加して一緒に楽しめるようにするなど、対象を意識してプログラムを練り上げました。



演奏を楽しみました

マス・コミュニケーション学科ドキュメンタリー作品紹介

マス・コミュニケーション学科の森川俊生教授の専門ゼミナールでは、ドキュメンタリー作品の制作に取り組んでいます。

2023年度3年次のゼミ生は、今年度初めて関東大学1部リーグに挑戦した江戸川大学男子バスケットボール部に半年間密着取材。試合や練習風景、1部リーグに挑む選手・スタッフの思いを撮影し、『初陣〜彼らの標(しるべ)〜』と題したドキュメンタリー作品を完成させ、『東京ビデオフェスティバル2024』に出品しました。作品は本学公式YouTubeチャンネルで公開しています。

初陣〜彼らの標(しるべ)〜

マス・コミュニケーション学科学生の執筆記事がラグビーサイトに掲載

マス・コミュニケーション学科の神田洋教授の専門ゼミでスポーツジャーナリズムを学ぶ3年生の宮下凌さんの執筆記事が、流山ラグビークラブの公式Webサイトに掲載されました。

ラグビー関連の書籍を紹介する企画「ラグビーを読む」の第10回として元早稲田大ラグビー部監督、中竹竜一さんの『監督に期待するな 早稲田ラグビー「フォロワーシップ」の勝利』を取り上げています。早稲田大学を2度の学生日本一に導いた著者が自分に足りないものを自覚し、できる範囲で最大限の努力をしたことなどを紹介しています。



**西村律子准教授、浅岡章一教授
ゼミの卒業研究成果が国際誌
『Industrial Health』に掲載**

人間心理学科の西村律子准教授と浅岡章一教授が、両研究室のゼミ生とともに行った研究成果が、2023年4月1日(土)独立行政法人労働安全衛生総合研究所が発刊している査読付き国際学術誌『Industrial Health』に掲載されました。

本論文は、2019年度卒業生である面来和季さんが卒業研究として実施した研究成果に基づいており、弱い社会的ストレスが睡眠不足下にある人の意思決定に与える影響を検討しています。

**石橋美香子講師の研究が
公益財団法人前川財団の
家庭・地域教育助成に採択**

人間心理学科の石橋美香子講師が申請した研究テーマ「乳幼児期の非認知能力の発達―グリットの萌芽的要因に着目して―」が公益財団法人前川財団家庭・地域教育助成にて、研究助成を受けました。本採択内容は、1歳頃の乳児の注意制御が1歳半頃の幼児のグリット(やり抜く力)を調べる課題と関連するのかを短期縦断的な研究により明らかにすることを目的にしています。

石橋講師は「本研究を行うこと

は、子どもの学びを育む力を整える環境構成の提案など、日本の家庭及び地域社会の教育支援にも貢献しうる研究であると強く認識し、子どもたちの未来のために研究を進めて参ります」とコメントしています。

**山本隆一郎教授が参画する研究
グループが不眠症に対する
認知行動療法の有効な要素を解明**

人間心理学科の山本隆一郎教授が参画する研究グループが不眠症に対する認知行動療法の有効な要素を解明しました。

本研究では、最先端の統計解析手法である要素ネットワークメタアナリシスを用いることで、複数の要素の組み合わせから成る不眠症の認知行動療法の要素ごとの有効性を世界で初めて推定しました。不眠症に対して認知行動療法が有効であることは実証されていましたが、複数の要素のうちのどの要素が有効なのかは知られていませんでした。

本研究では、認知行動療法の構成要素まで詳細に検討することで、全体としてだけでなく要素ごとの有効性を検証し、睡眠制限法・刺激統制法・認知再構成・第3世代の手法(マインドフルネス等)・対面提供が有効であることを明らかにしました。一方、臨床現場で

よく用いられている睡眠衛生指導やリラクゼーションの有効性は示されませんでした。この研究成果は今後、有効性の高い要素を含み、有効性の低い要素を省略した、効果的かつ効率的なプログラムの開発に繋がり、不眠症の認知行動療法の今後の普及を促進し、多くの方が悩む不眠症の改善につながる事が期待されます。

**佐藤秀樹講師がバン格拉デシュの
クルナ大学で講演**

現代社会科学科の佐藤秀樹講師が現地時間9月10日(日)にバン格拉デシュ・クルナ市にあるクルナ大学(Khulna University)にて、「Introduction of Environmental Education in Japan ~ From the Viewpoints of Raising the People's Environmental Awareness ~」と題して特別講演を行い、クルナ大学の生命科学部(Life Science school)に所属する学生160人が参加しました。

佐藤講師は、日本の環境問題の背景と歴史の概要に関する説明や、環境問題を解決する上で環境教育の果たす役割を英語で解説しました。

また、日本の環境教育の具体的な取り組みや、アプローチ方法並びに江戸川大学での環境フィールドワークの内容について紹介しました。

**第11回情報教育研究会を対面と
オンラインのハイブリッドで開催**

情報教育研究所が7月30日(日)に「第11回江戸川大学情報教育研究会」を対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。「生成系AI時代にどのような資質・能力を情報科で育成するのか」をテーマとし、対面には首都圏から、オンラインには日本全国から、高等学校や大学の先生方が多数参加され、大盛況のうちに終了しました。

**八鍬博敏助教が
人材育成支援研修会の講師を担当**

心理相談センターの八鍬博敏助教が、9月22日(金)に千葉県流山市で「基幹相談支援センター(西深井地域生活支援センターすみれ)主催 人材育成支援研修会」の講師を務めました。

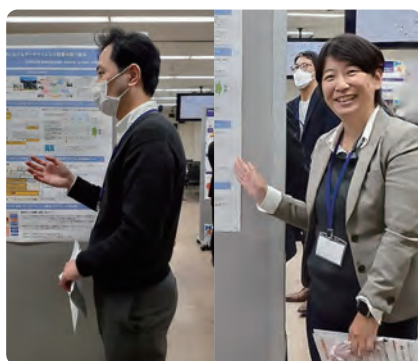
近年、対人援助支援の現場では、以前に増してより専門的な知識と対応が求められています。本研修会は流山市内で支援業務を行っている障害福祉事業所や相談支援専門員の研鑽を目的として実施され、八鍬助教は「発達障害のアセスメントと支援」と題して、講師を担当しました。

研究活動

情報教育研究所教員が数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムのワークショップで発表

情報化社会の課題や困難を克服する Society 5.0 の実現に向け、政府を挙げて取り組む AI 戦略の下、数理・データサイエンス・AI 教育を全ての大学生が受けられる環境の整備が求められています。江戸川大学は、文部科学省が主導する「数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム」に参加しています。

11月20日(月)に東京大学本郷キャンパス工学部6号館で開催された「2023年度関東ブロック対面ワークショップ」では、江戸川大学情報教育研究所の教員がポスター発表を行いました。江戸川大学で行われているデータサイエンス教育の実践について発表を行い、他大学から参加されている多くの先生方と意見交流をすることができました。



山口敏和准教授(左)と松尾由美講師(右)

睡眠研究所が第12回学術フォーラムで夜間睡眠脳波観測会を開催

9月5日(火)夜から6日(水)朝にかけて、B棟5階の睡眠実験室にて、睡眠研究所が夜間睡眠脳波観測会を開催しました。第12回学術フォーラムとして行ったこの観測会には、人間心理学科の3年生と4年生の学生あわせて15名が参加しました。睡眠研究所の学内スタッフを中心となり、実際に睡眠脳波を測定・観察しながら測定方法や特性などを解説しました。

睡眠研究所次長の西村律子准教授は「学生にとって、実際の脳波測定や、夜間の実験を体験することができる貴重な機会となったと思います。この観測会が、学生が睡眠実験室を積極的に使用し、価値のある研究を推進してもらえる機会になればと考えています。」とコメントしました。



脳波を見ながら測定・観察を行いました

第12回こどもコミュニケーションフォーラム開催報告
(映画「こどもかいぎ」を通して「シェア・ザ・ボイス」)

こどもコミュニケーション研究所が学園祭2日目の11月3日(金・祝)に、第12回こどもコミュニケーションフォーラムを実施しました。

フォーラムでは、映画「こどもかいぎ」を上映し、89名にご来場いただきました。上映後には、映画を観た感想や考えたことを紙に書いてボードに貼り、共有をするイベント「シェア・ザ・ボイス」を行い、こどもコミュニケーション研究所Webページで共有しあう取り組みを行いました。



参加したこどもコミュニケーション学科の学生たち



佐藤秀樹講師が分担執筆した『キーワードで知るサステナビリティ』が出版

現代社会学科の佐藤秀樹講師が分担執筆した『キーワードで知るサステナビリティ』が10月31日（火）に武蔵野大学出版会より出版されました。

佐藤講師は、「『社会システム』の中で「ファシリテーション（対話の促進）」について執筆しています。持続可能な社会の実現に向け、ファシリテーションの進め方やファシリテーターに求められる技能、そしてそれらの必要性について解説しています。



阿南透教授の共著『生産と消費（講座日本民俗学5）』が出版

現代社会学科の阿南透教授の共著『生産と消費（講座日本民俗学5）』が、11月1日（水）に朝倉書店より出版されました。

『講座日本民俗学』は、柳田國男が日本で創生した民俗学が「民俗伝承学」であることを強調し、

基本的な視点と方法である比較研究法の重要性と有効性を再確認するシリーズです。

第5巻となる本書は、生活の組み立てとその変化を衣食住の分野で見直し、また自然との関係性のなかでさまざまな智慧と技術を生み出し伝承してきた農山漁村での人間として等身大の生産活動を取り上げる内容となっており、阿南教授は第4章第4節「観光と商品」の執筆を担当しました。



関根直樹教授の著書『17人のエキスパートが語る音楽業界で食べていく方法』が出版

経営社会学科の関根直樹教授の著書『17人のエキスパートが語る音楽業界で食べていく方法』（リットーミュージック）が11月17日（金）に出版されました。

本書は、関根教授がレーベル、マネジメント、コンサート制作等、音楽業界各部門の最前線で活躍しているエキスパート17人に、自身の就

職までの道のりやコロナ禍を乗り越えた音楽業界の現在などをインタビューし、執筆された著書です。音楽業界の今後の展望等も深く知ることができ、音楽業界を目指す学生必読の指南書となっています。



睡眠研究所の教員が分担執筆をした『睡眠環境学入門』が出版

人間心理学科・睡眠研究所の福田一彦特任教授、山本隆一郎教授、野添健太講師が分担執筆をした、『日本睡眠環境学会（監修）、日本睡眠環境学会睡眠教育委員会（編）『睡眠環境学入門』（株式会社全日本病院出版会）が6月2日（金）に出版されました。

福田特任教授と野添講師は「第2章 睡眠科学の基礎 3. 睡眠時の心理現象（福田一彦・岡部聡美・野添健太）」を執筆。福田特任教授は睡眠麻痺などの睡眠中の心理的現象について解説し、野添講師は睡眠中の心理的現象の中でも、睡

眠中の記憶の固定に関する情報について解説しています。

山本教授は「第2章 睡眠科学の基礎 6. 生体リズム（山本隆一郎）」を執筆し、さまざまな生理機能や行動の周期的変化である生体リズム、生体リズムを形成する生物時計の仕組み、生物時計の外界の周期情報との同調メカニズム、約24時間の周期を示す睡眠・覚醒リズムの形成メカニズムなどについて解説しています。



高校との連携協定調印式を開催

江戸川大学駒木キャンパスにおいて、6月27日（火）に西武台千葉中学校・高等学校、7月13日（木）に日本体育大学柏高等学校との連携協定調印式が行われました。

両日ともに、冒頭、情報文化学科の山口敏和准教授より、今回の連携協定に至る経緯説明が行われ、続いて小口彦太学長より期待の言葉が述べられました。

西武台千葉中学校・高等学校の須田秀伸校長から、「何か体験したことが将来の羽ばたきにつながる、そんなきっかけにこの連携協定がなるよう、良い関係を続けていければ」との抱負が述べられました。



本学教員と西武台千葉中学校・高等学校の須田秀伸校長

日本体育大学柏高等学校の氷海正行校長からは、「総合的な探究の時間が始まり、「日本体育大学柏高校の探究の時間は面白い」といつてもらえるように取り組みを進めているところで、今回の連携協定がありがたく思う」と歓迎の言葉が述べられました。



本学教職員と日本体育大学柏高等学校の氷海正行校長

流山市委託事業 「子育て支援員研修」を実施

江戸川大学では、2016年度から流山市より委託された事業「子育て支援員研修」を実施しています。

地域の子育て支援に関心がある方に、子育て支援員として活動していただくための知識や技術の習得を目的とした研修です。流山市との委託契約に基づき、本学の付属機関であるこどもコミュニケーション

ション研究所が中心となり、国の実施要綱に基づくカリキュラムによる講習を、流山市民及び市内在勤・在学の方を対象に実施しています。

2023年度は、地域保育コース21名、地域保育コース（一時預かり事業）4名、地域子育て支援コース（地域子育て支援拠点事業）8名の計33名の方が参加され、7月～10月まで基本研修と専門研修が行われました。



上越教育大学と連携・協力に関する協定を締結

6月22日（木）に江戸川大学は、新潟県上越市の国立大学法人上越教育大学（学長・林泰成）と連携・協力に関する協定を締結しました。

本協定は、教員養成、教育、研

究等における人的・物的資源の相互活用その他連携協力を推進することにより、それぞれの活動の充実を図るとともに、我が国及び地域の発展に寄与することを目的としたものです。

また、本協定に基づき、「上越教育大学と江戸川大学における上越教育大学大学院学校教育研究科への学生受入れ及び学生支援に関する覚書」を締結しました。

両大学の教員養成や公認心理師養成のより一層の充実や研究活動の更なる発展が期待されます。

日本シミュレーション＆ゲーミング学会 2023年秋期全国大会を開催

日本シミュレーション＆ゲーミング学会2023年秋期全国大会が11月25日（土）・26日（日）に情報文化学科の玉田和恵教授（情報教育研究所長）を大会実行委員長、同所属の山口敏和准教授を実行委員として、情報教育研究所のスタッフの協力のもと、江戸川大学にて開催されました。

NPO法人日本シミュレーション＆ゲーミング学会はシミュレーションとゲーミング、それらに関連する分野の学際的な学協会です。グローバル市民社会の一員として、情報社会の地平を拓き、生活世界の身近な問題から地球規模

社会・地域との連携・交流活動

の問題にまで広く通用する教育・問題解決・科学知見の方法論へ深化・発展させ、適切なシミュレーション&ゲーミング・リテラシーを普及させることを目指しています。

江戸川大学とボニーキャニオンが産学協同

経営社会学科音楽ビジネスコースでは3年次の科目である専門ゼミナールの取り組みとして、学生が楽曲選定やアーティスト写真・MVの撮影などのアーティストプロデュースを行っています。

今年は、昨年 NEXTAGE ARTIST AUDITION でグランプリを受賞した「エレクトロキャバシティ」のプロデュースを行い、11月17日に彼らのオリジナル楽曲『ミッドナイト・フォール』が、株式会社ボニーキャニオンが提供するPR型配信サービス「early Reflection」を通じて配信リリースされました。

NEXTAGE ARTIST AUDITION とは、社会学部経営社会学科音楽ビジネスコースの2年次の科目である演習・実習の取り組みで、学生が企画・運営を行い、次世代を担い世界に通用する可能性を持った高校生アーティストを選出していく行っているオーディションです。



エレクトロキャバシティ

情報文化学科学生が「スマホカフェ」を開催

情報文化学科では、学生と地域のシニア世代が交流しながらスマートフォンを使い方を一緒に考える「スマホカフェ」を開催しています。

同学科の玉田和恵教授と松尾由美講師のアドバイスを受けてながら、学生が主体となって行っているこの取り組みは、江戸川大学がパルシステム千葉・NPO法人メリリルから委託を受けて実施しています。その目的は、地域のシニア世代のデジタルリテラシー向上と、参加学生が異年齢間交流により学びを得ることです。

9月19日(火)は「バルひろば☆おおたかの森」にて学生が講師となり、LINEの使い方講座を行いました。10月26日(木)には江戸川大学にて、学生がシニアの

方にスマホ利用の実情や困っていること・やってみたいことを、今後の企画・運営の参考とするために伺いました。両日とも、シニアの方と大学生が和気あいあいと楽しそうに会話する姿が見られました。



スマートフォンの使い方を考えました

情報教育研究所主催「第11回サイエンスセミナー」が4年ぶりに対面で開催

情報教育研究所が8月7日(月)に「第11回サイエンスセミナー2023」を江戸川大学を4年ぶりに対面で開催しました。近隣の子どもたちをはじめ、地域の方々に多数ご参加いただき、大盛況のうち終了しました。

今回初めての試みとして本学学生が講師となり、中高生を対象にBlenderの使い方を教える3Dモデリング講座を開催しました。また、同じく新企画として、未就学

児・小学生向けの「なつやすみデータサイエンス教室」を実施しました。こちらでも本学学生が講師となり、データサイエンスの基礎をレクチャーし、子どもたちをサポートして一緒に作った傘袋風船ロケットを飛ばして記録を計測しました。地域の未就学児、小学生に加え、系列校の江戸川学園取手小学校からも多数の子どもたちが参加しました。

その他にも、3Dペン、3Dプリンタ、3Dスキャナ体験コーナーや、ドローン操縦体験も用意され、本学学生が各コーナーでスタッフとして大活躍し、ご来場いただいた方からは「限られたスタッフの人数で事前準備が丁寧に行われていました。子どもたちは本当に喜んでいました」とお褒めの言葉を頂きました。



外部表彰

奥山慎也助教が体力・栄養・免疫学会で三島賞を受賞

睡眠研究所・奥山慎也助教の論文「Effects of Carotenoids, Alpha-tocopherol, Ascorbic Acid in the Association of Telomere Length and Cognitive Function among a Japanese Population (Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology 32(1):11 - 19, 2022)」が体力・栄養・免疫学会の第48回三島賞（体力・栄養・免疫学会学術賞）を受賞しました。

同賞は、2022年度の体力・栄養・免疫学会誌に掲載された論文の中から、優秀な論文と認められたものに授与されるものです。

マスコミ学科学生が「2023 CHIBA UNIVERSITY PRESS」で特別賞受賞

マス・コミュニケーション学科の学生が、千葉日報社主催「2023 CHIBA UNIVERSITY PRESS (CUP)」で特別賞を受賞しました。CUPは千葉県内の大学生が千葉日報社の学生記者として取材・紙面レイアウトなど新聞作りを体験する企画です。

学生たちは、本来大人が担うことを想定されている家事や家族の介護などを日常的に担うこども、若者（ヤングケアラー）に着目し、孤立しがちなヤングケアラーを支援するNPO法人や自治体の公的機関、児童福祉に詳しい本学こどもコミュニケーション学科の我謝美左子准教授に取材を行い、『ヤングケアラーを考える』と題して記事をまとめました。



（左から）館林牧子教授、田辺里穂子さん、小島大翔さん、吉井瑞樹さん、中川由菜さん

令和5年度（第54回）千葉県私学教育功労者表彰

千葉県私学教育振興財団は、千葉県の私学教育、学術又は文化の振興に関し、多年にわたる功績があった方々に対し、その功績を称え表彰を行っています。大学事務局から総務部企画総務課長の大中二郎さん、総務部学術情報課長の宮川実樹典さん、学務部教務課長の小島光博さんが表彰されました。



ライトアップされたキャンパス

強化指定部活動報告

今年度の強化指定部は「挑戦」の年となりました。

フットボールクラブは、千葉県大学サッカーリーグの1部で4位、2部で3位の成績を収め、今年度から関東大学インディペンデンスリーグにも出場しました。

男子バスケットボール部は初めて関東大学1部リーグに挑戦し、強豪校揃いの中、2勝を挙げました。

女子バスケットボール部は、12年ぶりに全日本大学女子バスケットボール選手権大会（インカレ）に出場を果たし、目標とするベスト16進出はなりませんでした。創部初のインカレ勝利を記録し、グループステージを突破する大健闘を見せてくれました。

女子バレーボール部は、丸山貴也新監督の下、全日本バレーボール大学女子選手権大会（全日本インカレ）に出場し、ベスト32の成績を収めました。

2023年度公式戦活動報告

フットボールクラブ

千葉県大学サッカーリーグ1部 4位（12勝5敗1分け）
千葉県大学サッカーリーグ2部 3位（5勝2敗2分け）
千葉県大学サッカー選手権大会 トーナメント2回戦出場
関東大学インディペンデンスリーグ2部
Cブロック 7位（3勝11敗6分け）

女子バスケットボール部

関東大学女子バスケットボール2部Aブロック 通算7勝7敗 4位
全日本大学女子バスケットボール選手権大会（インカレ）
トーナメント1回戦出場
関東大学女子バスケットボール選手権大会 トーナメント2回戦出場
オズルンバグッドネス アヨミデ選手が2部Aブロック得点王受賞

男子バスケットボール部

関東大学バスケットボール1部リーグ 14位（2勝17敗）
次年度は2部リーグにて競技
Development-League 3位

女子バレーボール部

春季関東大学女子2部バレーボールリーグ戦 5位（5勝5敗）
秋季関東大学女子2部バレーボールリーグ戦 10位（1勝8敗）
秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会（インカレ）
ベスト32
徳村香琳選手が2部サーブ賞受賞（秋季リーグ）

男子バスケットボール部が台湾の光復高中と国際交流試合を実施

10月16日（月）に江戸川大学男子バスケットボール部Bチームが台湾の光復高中（光復高級中學）と練習試合を行いました。光復高中のバスケットボール部は、台湾代表や卒業後にアメリカ留学が決まっている選手を擁し、台湾高校バスケの頂点を決める大会「HBL」を2連覇しているチームです。光復高中の高さやフィジカルの前にゲームスコアでは圧倒されてしまいましたが、バスケットボール競技を通してお互いを尊重し理解することができ、国際交流でのスポーツの力を体感した素晴らしい経験となりました。



男女バスケットボール部が流山市の小学生ミニバスケットボール大会の運営をサポート

10月26日（木）と27日（金）の2日間、江戸川大学男女バスケットボール部の部員とスタッフが地元流山市の小学生ミニバスケットボール大会の運営をサポートしました。

キックマンアリーナにて行われた大会の運営サポートは、男女バスケットボール部の地域貢献活動として昨年度から行っているもので、会場準備や審判を担当した学生達は、子どもたちとのコミュニケーションを積極的にとり、一緒に大会運営の仕事をしました。

また、流山市立八木南小学校教諭でミニバスケットボール大会審判委員長の割貝惇先生は江戸川大学男子バスケットボール部のOBで、大会運営の話だけでなく、教員の仕事のやりがいについて何うこともでき、教職課程を履修する学生にとってとても貴重な機会になりました。

江戸川大学の男女バスケットボール部は、このような活動を通して、社会に貢献できる人材の育成を引き続き行っていきます。



会場の設営を行う



小学生とも交流しました

施設設備

事務局のレイアウト変更を実施

夏期休業中にA棟1階の事務局(学務部教務課、学生課、就職課、こどもコミュニケーション実習センター)のレイアウト変更を行い、C棟1階に事務室を構えていた国際室もA棟1階に移動しました。



C棟1階に祈祷室を設置

文化や宗教など多様な背景を持つ方々が心地よく過ごせるよう、C棟1階に祈祷室(Prayer Room)を設置しました。中はパーテーションで区切られており、宗教や宗派を問わず利用可能となっています。



防災訓練

2023年度防災訓練は9月15日(金)、21日(木)の2日間行い、教職員合同の対面防災訓練と、学生の避難訓練を実施しました。

今回は地震発生後、A棟2階非常勤講師室から火災が発生したという想定で、15日(金)は教職員のみで全体訓練と部分訓練を行い、無線機、担架、消防設備の使い方の確認、要救助者の運び方、AEDの置き場所や使用方法を確認しました。21日(木)は授業中に地震が発生した想定で、授業担当教員が学生を速やかに避難させる訓練を行いました。コロナ禍を経て数年ぶりの対面防災訓練となり様々な改善点などが見えた場となりました。



訓練前に役割の確認を行う



負傷者を運ぶ際の担架の使い方を確認する



教員の誘導で中庭に避難する学生達



続々と入る報告をまとめる通報連絡班

2022年度決算報告

学校法人江戸川学園の2022年度決算報告を大学公式ウェブサイトで公開しています。事業活動収入は前年度より197百万円増加の8,560百万円、事業活動支出は前年度より244百万円増加の8,029百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は前年度より47百万円減少の570百万円となりました。基本金組入額は前年度より544百万円減少の423百万円となり、当年度収支差額は148百万円となりました。前年度繰越収支差額が△3,975百万円の為、基本金取崩額51百万円を勘案した翌年度繰越収支差額は△3,777百万円となりました。

教育活動収支

教育活動収入は、学生生徒等納付金が61百万円増加したことや、経常費等補助金が43百万円増加したこととで、前年度比210百万円増加の8,517百万円となりました。一方、教育活動支出は、人件費が前年度比112百万円、教育研究経費が86百万円増加したこと等から、前年度比207百万円増加の7,956百万円となりました。その結果、教育活動収支差額は対前年度比2百万円増加の561百万円となりました。

教育活動外収支差額は、前年比同水準の29百万円となりました。特別収支差額は、前年度比50百万円減少の△19百万円となりました。

創立二十五周年 江戸川学園物語 最終回

「小さき足跡」は、当時の江戸川学園理事長であった木内きぬ先生が原稿を執筆し、江戸川女子高等学校の先生と生徒が編集した冊子です。十二号は、創立二十五周年を記念して、江戸川学園物語をまとめられました。原文のまま連載します。

講堂の中央に『以和貴為』西脇呉石先生の額を岡野理事が寄付して下さった。一方教育内容の面で新校長は職員の刷新をはかり、各部施設の充実に意を用い、文部省家庭科産業教育の指定を受け、職員研究を盛にするなどに力を致し、私立に応わしい学問にのみ偏しない人柄の育成に重点をおいてこつこつと地道な歩みを続けて行つた。職員の和と協力と相まつて学園の第二の危機はようやく曙光への段階を見るに至つた。近々五年の歩みを辿つて見よう

昭和廿六年二月宮崎氏所有の校地四四九坪を買収

昭和廿六年十月廿五日大橋栄吉氏所有の土地八十一坪を学園花壇とし購入

昭和廿六年十一月四日創立廿周年式典挙行

昭和廿七年十一月廿二日講堂落成式典挙行

昭和廿九年三月校庭の地続二百廿三坪矢口政雄氏より購入

昭和廿九年八月校庭東南隅にある住宅（書院）を移転完了（八十一坪内に）

昭和卅年十二月十四日校庭東側にありし田端実氏所有の家屋木造平家十四坪に二

合五勺を購入、塙重雄氏転居先と定む

昭和卅年十二月校舎南側に居住の、塙氏一家転居完了

昭和三十一年一月校庭南側、塙氏居住せし家屋十五坪七合五勺取壊完了

昭和卅一年四月十七日校庭南側に二階建一棟七十一坪の建築を朝日工事に依頼契

約成立

昭和卅一年四月二十三日塙氏転居先の土地卅八坪一合を（杉浦音次郎氏所有）借

地契約完了

昭和卅一年五月十五日書院移転先の地続の土地五四坪八合七勺、家屋二十三坪七

合二勺を田中宗一郎氏より購入

昭和卅一年九月一日校舎西側七十一坪（二教室、理事室、事務室、新玄関）増築

完了（二十五周年記念事業）

昭和卅一年八月北軽井沢に山荘予定地六百坪を購入

こうして羅列して見ると、読む人に取っては何の興味もなく、事はすらすらと運んだようにも思えるが、その衝に当つて見るとその一つ一つに苦勞の汗がにじんで居る。

然も一つ一つ確保して行つても、もう之でよいという時はない、それ程世間の進歩は早いのである。ちつとしていたら置いてけぼりにされてしまう。第三の波が何時襲つて来るかもわからない。

この九月の展覧会に編集部の人達が学園の将来構想を描いた模型を出品された。二年生がそれに対して『ドリーム』の名称をつけた。

実際この夢の実現に向つて飛躍しなければならぬ大きな示唆となつてゐる。そうしてそれはもう私の手には届かない。次代を背負う者の双肩にかゝつてゐるのである。思ひは木内に死別以来四年の歳月、私に取つては悪戦苦闘の生々しい現実であつたが、兎も角、危機は乗り超えてこゝまで辿つて来たことは私を巡る周囲の人達の努力の賜である。感謝の心を以つて謙虚に生きて行こう。

（筆者は学校法人江戸川学園理事長）

創立三十周年を夢見て

木内一郎

創立二十五周年と一口には言はれるが容易な事ではない。大きな波小さな波が絶え間なく襲いかかり、その都度苦慮し、対策を立てやつとの思いで乗り切つて来たものである。

人間にたとえてみれば赤児よりやつとの事で成人し、これから何か社会のために奉仕する年代に入つたと言え様か、廿五周年のこの機会に三十周年の時における成長ぶりを思い、又一段と心を新にしたものである。

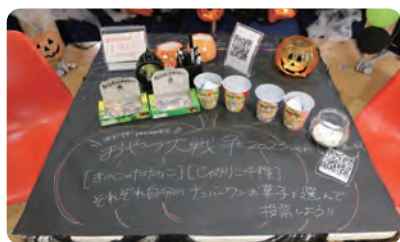
（出典…小さき足跡十二号「創立二十五周年江戸川学園物語」）

学生組織「エド・アド」によるイベント

マス・コミュニケーション学科の学生で組織する仮想広告会社「エド・アド」が学生参加型の学内イベントを企画実施しました。学生ホールに装飾を施し、「Summer Vacation Memorial」(9月)「おやつ大戦争 2023ver」(10月)「クリスマス & 忘年会企画」(12月)を実施しました。



Summer Vacation Memorial



おやつ大戦争
2023ver



クリスマス &
忘年会企画

映像放送研究部が ミュージックビデオを制作

映像放送研究部の学生が11月3日(金・祝)に開催された江戸川ガールズアワードでミニライブを行ったエレクトロキャパシティのデビューシングル『ミッドナイト・フォール』のミュージックビデオを制作しました。軽快なロックサウンドと、楽しそうに演奏するメンバーの表情を組み合わせた作品となっています。ぜひご覧ください。



ミッドナイト・フォールミュージックビデオ

保護者会の実施

9月から11月にかけて学科毎に保護者会を実施し、学生の学びの状況や学生生活、学科での取り組み等の意見交換等を行いました。多くの保護者の方にご参加いただき、とても有意義な会になりました。

大学公式 YouTube チャンネルにて 動画を公開中

入学式などの行事や部活動、マス・コミュニケーション学科の学生が制作した江戸川大学CMやショートフィルムを本学公式YouTubeチャンネルで公開しています。また、江戸川大学の教員が大学や授業の魅力、専門分野の気になる話について1分で紹介するショート動画の公開も始めました。ぜひご覧ください。



江戸川大学公式 YouTube チャンネル

卒業生・若松優津さんがデフバスケット ボール女子日本代表に選出

こどもコミュニケーション学科卒業生(2018年卒)の若松優津さんが、デフバスケットボール女子日本代表チームに選拔されました。デフバスケットボールは、競技中の仲間が走り回る足音、ドリブルでボールが跳ねる音、味方や監督の声、観客の応援の音などが聴こえにくい、もしくは全く聴こえない状態でバスケットボールをプレーします。声でのコミュニケーションを取ることが難しい分、手話でのコミュニケーションのほか、自分たちで共通の認識を持てるようなサインを作る(サインバスケ)など、様々な工夫をして戦います。デフリンピックは2025年11月に開催され、バスケットボール競技は大田区総合体育館で開催されます。初の金メダル獲得に向け頑張る卒業生の応援をよろしくをお願いします。



若松優津さん

◎編集後記

今号の表紙を飾った女子バスケットボール部は、12年ぶりに全日本大学女子バスケットボール選手権大会(インカレ)に出場し、全国から集まった強豪校を相手に大健闘しました。自分たちのプレーが出来ずに苦しい展開になったとしても、試合が終わるその瞬間まで諦めずに戦う姿勢は、後輩たちに引き継がれ、今後のチームの糧になっていくのだと思います。日々の活動の中で難しい壁にぶつかった時、「諦めないで挑む気持ち」はいつまでも心掛けていきたいものです。

江戸川大学学報

2024年2月号 第53号

Vol.22 No.2 2024年2月29日発行

発行 江戸川大学 事務局 総務部広報課
〒270-0198 千葉県流山市駒木 474
TEL.04-7152-0661 (代表)